

オクセン

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470900265	事業の開始年月日	平成9年1月28日	
		指定年月日	平成12年4月1日	
法人名	医療法人 福医会			
事業所名	オクセン			
所在地	(222-0111)			
	横浜市港北区樽町2-10-26			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
定員計		9名		
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月2日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成9年横浜市のモデル事業として開設しました。認知症であってもその人らしく家庭的な環境の中で残された力を発揮しながら安心と喜びのあるその人らしい生活を送っていただけるよう支援しています。医療と福祉の連携を基盤とし、重度化、終末期への対応、入院の支援なども行っています。東急東横線綱島駅から近く、幹線道路沿いの交通量が多い町中にあり、都会で生活してきた利用者にとっては今までの生活環境を続けられ、ホーム内は1階から3階まで吹き抜けと大きな窓があって閉塞感を感じさせない作りになっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年2月22日	評価機関 評価決定日	平成21年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<優れている点>
◇平成9年開所以来の多くの経験・ノウハウを有しており、利用者の気持ちを大切に全人的に支えることを基本としている。24時間の万全な医療連携体制を敷き、利用者は安心して介護サービスを受けている。家族の満足度も高い。
◇地域住民が進んで調理を担当してくれるなど地域の理解が深い。利用者の重度化が進んで難しいが可能な限り地域とのつきあいを続けている。
◇生活リハビリ(食事の配膳・下膳、洗濯たたみ等)は利用者がストレスを感じることなく、本人の気持ちに沿った認知症ケアの原則を守り、実施している。
◇居室に馴染みの家具を置いている。また、認知症が進んだ場合、ボタン付きの衣服を利用者の目の届かない場所に保管して利用者がとまどいのないよう、安心・安全に暮らせるように配慮をしている。
<工夫点>
◇運営推進会議で地域の理解を深めてもらうよう認知症について説明し、地域に理解して貰うよう専門性を発揮している。
◇排泄チェック表を活用し、本人の仕草などのサインをくみ取ったり事前にトイレ誘導を繰り返した結果、リハビリパンツから布パンツ着用に改善された利用者がある。
◇トイレにエアコンを設置して夜間でも適度な室温を維持し、身体的影響が出ないように配慮している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

オクセン

事業所名	オクセン
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス等で、理念が実践できているか確認している。利用者の状態を把握し、理念に沿うケアとはどうあるべきか、管理者と職員で話し合い、カンファレンスでまとめている。	理念は「生活の場として高齢者の生活を全人的に支え続ける」を掲げ、居間に掲示し、管理者と職員は毎月行うケアカンファレンスでケアに反映するべく話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店に買い物に出かけたり、散歩に出かけてあいさつを交わすなどの交流がある。	利用者の重度化が進み地域の行事に参加することが難しくなってきたが、日常の散歩、スーパーでの食材の買い物、お花見などの事業所の行事に利用者ができるだけ参加をして、地域とのつきあいを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会にいらっしゃる地域の友人や関係者、また併設する認知症対応型通所介護のご利用者家族や担当のケアマネージャーへ認知症の人の理解や支援の方法について説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の状況や介護保険の変更、事業所が取り組んでいるサービスの実際等について報告を行い、意見や感想をうかがい、事業所の取り組みに協力、ご理解いただいている。	昨年は3ヶ月ごとに開催し、メンバーは町内副会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員、事業所関係者である。認知症への理解を広め、認知症ケアの原則を説明した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会等に積極的に参加し、市町村担当者とも連絡、報告を行っている。	横浜市や港北区役所の担当者とは、日常的に連携を取っている。グループホーム連絡会(国、神奈川県、横浜市)に加盟し、活動を通じて行政と情報交換をしている。	

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、日々カンファレンス等で話し合いを行っている。幹線道路に面した建物のため玄関には鍵をかけているが、拘束感を感じないように希望に沿った外出の支援を心がけている。	居室、居間は常に鍵を掛けている。事業所玄関は国道に面しているため、安全のため施錠している。職員は外部研修を受け、見守りが本来の姿であると認識して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、事例検討などカンファレンスで話し合ったり、虐待につながるような場面がないかどうか業務の流れの見直しなどを行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員はグループホーム連絡会等の勉強会に参加し、理解を深めるよう努力している。成年後見制度を利用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終結の際、及び随時、不安や疑問点については十分時間をかけて説明するよう努めている。契約解除時についても、個々の家庭の状況を踏まえ、十分な協議のもとで行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の些細な非言語の表現も見逃さないよう努めている。ご家族との関係は、入居者がその人らしい生活をする上で非常に重要であり、ご家族が意見、提案を発しやすい関係を保てるよう日々努めている。	利用者、家族の意見・要望は申し送りノート(内容によっては個人記録)、業務日誌に記載し内容については職員間で話し合い共有を図っている。	苦情相談窓口(事業所、外部機関)を重要事項説明書に記載していますが、さらに、家族などに周知するよう事業所内に掲示することが望まれます。

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者あるいは管理者は、カンファレンス等で職員の提案や意見が出しやすい環境づくりを心がけ、また職員と個別に話す機会を設け、意思の疎通を図るよう努めている。	管理者はカンファレンス等で職員の意見や提案を聞き実行に移している。 例：調理士免許を有する利用者に調理の手伝いに入ってもらうことを提案し実行中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や実績等に合わせ役割分担を行い、各自の能力向上や、やりがいを感じられる職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部の研修が受けられるよう計画している。職場内では、経験年数や知識に合わせたタイムリーな個別の指導及び研修が受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会や地域の事業所向けに行われる研修会や交換研修などに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には本人と話し気持ちを受け止めながら、一緒に過ごす時間を十分持ち、スタッフとの信頼関係を築くようにしている。		

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や以前のサービス利用時の関係者から、これまでの生活や家族の状況についてまた不安や要望など話しを聞き、今後の対応について話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム利用が本人や家族にとって最善かを話し合っている。状況によって、他のサービスを利用し在宅生活継続を勧めたり、他のグループホームを紹介した例も過去にある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には個々の状況に合わせて家事への参加等の役割を担っていただき、共同生活者としての関係を築くようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、ご自身の生活と健康を第一に考えていただき、気持ちに余裕をもち本人を支える関係を事業所に協力して担っていただけるようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までに築いてきた馴染みの方との関係をご本人の尊厳を守りながら継続できるように面会や手紙や電話などの支援をしている。	知人が気軽に訪問できるように支援している。家族が利用者の馴染みの場所に連れて行っている。利用者の家族の協力を得て、知人達に年賀状を出したところ、多くの返信があり利用者に喜ばれた。	

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等を考えながら、入居者同士の良い関係を保てるよう座席に配慮したり、職員が間を取り持ち、一緒に過ごすようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院等に移られた場合も、必要な場合はご家族に様子を聞きながら、その後の相談や支援を行うようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人のこれまでの暮らし方や意向が把握しにくい場合も多いが、本人との言語、非言語による十分なコミュニケーションを通じて、ホームでのご本人が望む生活を築いていくようにしている。	日常の会話、家族からの情報を通じて思いや意向を把握し、また、意思表示が困難な利用者の場合は、声、仕草、表情などから意思を把握している。これらをケアカンファレンスで検討しケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、これまでのサービス提供者、友人等、話を聞く機会を作り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式や事業所独自のアセスメントシート等を使用して、現状の把握に努めている。		

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、後見人、生活保護等の行政担当者、医療関係者等に相談、報告しながら介護計画を作成している。	本人、家族の意見、医師の助言を事前に把握し、毎月、全職員でケアカンファレンスを行い、現状に即した計画変更をしている。6ヶ月ごとに総見直しをし、家族の同意を得て実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態に合わせた個別の経過記録用紙や、睡眠・水分食事摂取量・排泄等の記録を行い、状況の変化に迅速に対応できるよう情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の希望に合わせた外出や、協力医療機関以外の医療機関への受診付添等、ご家族と相談しながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の体力や好みに合わせて安全に出かけられるお店や公園などの散歩コースを把握し、楽しみとして出かけられるよう支援している。また地域の方が合唱や合奏のボランティアで訪問して下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関がかかりつけ医である方がほとんどであり、往診又は随時の相談、受診が可能である。また緊急で入院が必要な場合は、病院とも連携体制を整えている。	内科(月4回往診)、歯科医院(随時往診)、歯科衛生士(毎週指導)、精神科病院、総合病院、特別養護老人ホーム(相談、助言)と提携している。眼科等かかりつけ医への通院の利用者もいる。	

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が、入居者の日々の生活に関わりながら介護職と協同し健康状態の把握に努め、医療が必要な場合はかかりつけ医との連携も担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院への入院がスムーズに行えるようかかりつけ医と病院との連携があり、協力病院とは早期退院に向け、情報交換、相談を適宜行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化、看取りの方針」により、ホームの体制等の説明をし、かかりつけ医と相談しながら、家族に現状、今後の変化の予測等をその都度報告しながら、家族の希望や本人の状態に合わせて支援方針の見直し、共有を適宜行っている。	重度化や看取りについては、24時間の医療連携体制を敷いている。家族の意向を尊重し、医師の指示を得て対応をしている。職員は外部研修、看取りの経験を通じて適切な対応ができるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	想定される体調の急変や事故については、職員で話し合い、情報を共有して対応に備えている。定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での防災訓練は行っているが、地域の方との具体的な訓練などは行っていない。全職員が避難誘導の方法を身につけるように定期的なシミュレーション訓練を行っている。	昨年6月、10月に避難訓練を実施した。避難誘導のシミュレーション、消火器の使い方(業者指導)、通報設備の取扱い等を目的とした。また、数日分の食糧備蓄を確保している。	消防署参加のもとで避難訓練をし、火災予防、緊急時の対応、設備の適切な取り扱い、職員の心構えなどの指導を得て災害に備えることを期待します。

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちに添ったかかわりを実践することが誇りやプライバシーを守る対応につながると考えている。職員が気持ちの余裕を持って働ける環境作りに事業所として配慮している。	入社時に接遇研修を受け、認知症の特徴を理解している。また、家族が不快にならない呼び名を使ったり、時には愛称で呼ぶ場合もある。日常的には通常の高齢者に対するよう差別のない接し方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みや希望を踏まえた上で、本人が選択、決定しやすいような質問の仕方に配慮し、自己決定して納得しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯や他の入居者の状況、職員の配置状況により難しい場合もあるが、できるだけ本人の希望を察知し、または話を聞き、一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら、カットやカーラーなど、スタッフが行っている。美容院に行く方もいる。衣類はご家族と相談しながら用意し、その人らしいおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をとり、準備や片付けは、できることを無理のない範囲で行っていただくようにしている。おやつ作りなどには積極的に参加できるように働きかけている。	食事の準備から調理まで手伝う利用者は1名で、他は配膳や後片付けをしている。常食、ミキサー食、きざみ食を準備し、利用者の好みや燕下状態に合わせた食事形態で提供している。	

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量はそれぞれの状態に応じた記録を行い、必要な量が確保できるよう、好みや状態に合わせた食支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と歯科衛生士の指導を受け、1人1人の状況に応じた口腔ケアを毎食後実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分、食事摂取量、運動、睡眠のリズム等を記録し、本人の排泄のパターンを把握するようにしている。また本人の行きたいときの仕草等を知り、オムツ着用の方でもできるだけトイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表を活用したり本人のサインをくみ取り、トイレ誘導を繰り返した結果、オムツからパッド+布パンツに変更した方もいる。会話が困難な方には本人のサインを汲み取ってトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	いつ便が出たか、便の形状、食事・水分の摂取量を観察・記録している。薬だけに頼らず、飲み物・食事・運動等、一人ひとりにあった便秘の解消法を探り、効果を観察して自然に出るように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴の時間は決まっているが、時間や曜日などはご本人の希望や体調により臨機応変に対応している。入浴が好きでない方の対応も、清潔を保ち気持ちよく過ごせるよう工夫している。	土・日以外、午前中から昼3時まで毎日入浴時間とし、最低でも週2日入浴している。風呂嫌いな方には週1回清拭を行う。下痢などで汚れた場合は感染症予防の為、部分清拭を行っている。	

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や、うたた寝を含めて睡眠のリズムを観察し、体力や生活習慣に合わせて休息がとれるよう支援している。安心して眠れるよう添い寝をしたり、明るさを調整するなど行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について、目的・用法などの一覧表があり、いつでも確認できるようにしている。症状の変化は観察・記録して、適宜かかりつけ医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・食事・買い物等の家事や趣味の踊りや歌などで楽しんだり、散歩や屋上、階段の踊り場などでの日光浴などで気晴らしをしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気分で散歩やドライブを楽しめるように、一人ひとりの希望に沿った個別の外出を心がけている。特別に遠方への外出の希望などはご家族と一緒に出かけていることもある。	全員参加はむずかしいが、外食に出かけることもある。歩くペースが違ったり、外出先で混乱する場合もあるので、今後は、個人対応を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所でお金を預かり管理しているが、できる方には家族と相談の上、ご自身で所持し、買い物ができるよう支援している。		

オクセン

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の能力を見極め、相手の方にも負担のない程度の支援を行うことに配慮しつつ、家族や友人へ手紙を書いたり、電話を受けたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、正月飾り、雛人形、五月人形、七夕飾り、クリスマスなどの飾りをしている。お一人お一人が何を居心地よく感じるのか見極めて、常に柔軟に対応している。	季節にあった飾りを、その都度玄関ホールや階段等に飾り、その他、絵画等を飾って雰囲気を出している。また、踊り場のスペースにソファを置き一人になれる空間を作っている。トイレにもエアコンを完備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3か所の居間、階段の踊り場のソファ、ダイニング、屋上などで自由に過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、使い慣れた馴染みの家具や趣味のもの、大切にしていた思い出の物などを持ってきていただくようお願いしている。入居後も状態の変化に合わせて居心地良く過ごせる部屋になるように配慮している。	寝起きが自分の力でできなくなるまでベッドを使用せず、7名の方が床に布団を敷いて寝起きしADLの低下を防いでいる。施設が提供する家具は椅子と照明だけで、その他は馴染みの家具を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	3階建てで階段があるが必ず手すりにつかまって昇り降りできるように入居当初より習慣にいただいている。トイレなどの場所を迷わないように表示をしたり、タンスに張り紙をしてご自身でわかるようにするなど工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

オクセン

作成日

平成22年3月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	苦情相談窓口（事業所、外部機関）を重要事項説明書に記載しているが、事業所内に掲示されていない	苦情相談窓口を事業所内に掲示し、ご家族等がいつでも見られるようにする	苦情相談窓口をご家族等が分かりやすい場所（玄関等）に掲示する	1か月
2	35	消防署参加のもとで避難訓練をし、火災予防、緊急時の対応、設備の適切な取り扱い、職員の心構えなどの指導を得て災害に備える	消防署参加のもとで避難訓練を実施し、指導を得て災害に備える	消防署に避難訓練への参加依頼をする。年2回の避難訓練を実施し、職員が災害に備えての心構えができるようにする。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。